

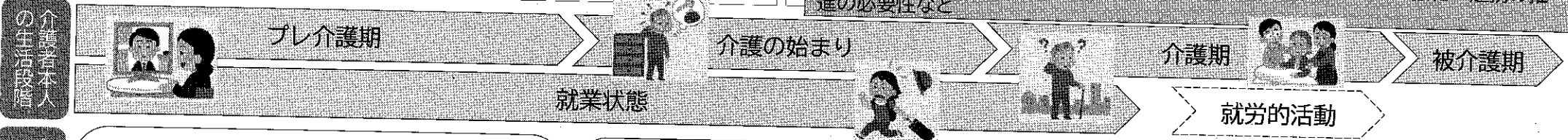
介護者本人の生活の質の向上のための支援施策

令和5年3月27日
高齢化対策審議会
資料 5

- 国の各種調査等によると、H13→H28で介護者数は約1.5倍に、うち男性介護者は約4割を占めるまでになったほか、介護に各種の負担を感じる割合は4～6割(H29)、介護離職者9.9万人(H29)などの影響が出ているところ。
- また、滋賀県の調査では、在宅認知症者の介護者の61%が介護を原因とする悩みがあると回答しており、それ以外の介護者が悩みがあるとする割合39%と比較して大きな差が出るなど、認知症者の介護負担の大きさが伺われる。
- 同調査では、介護を原因とする悩みとして「将来の見通し」が高い割合(悩み有り者の52%)で示されているなどといった状況がある。

- このほか、滋賀県ケアマネジャーインタビュー調査では、男性介護者の抱え込みといった問題が指摘されたほか、介護をするなかでもいきいきと過ごす人は、趣味や役割を持っていることが一定共通点として挙げられた。
- これらを踏まえ、特に介護負担が大きくなる在宅認知症者を介護する介護者本人を想定し、その生活の質(QOL)を向上させるための施策の構築を図る。

■高齢化対策審議会意見：認知症者を介護する場合の介護負担の大きさの考慮、将来の見通しを立てるための早期の備え、行政・専門職の相談体制の強化・連携の推進の必要性など



介護者本人の生活段階
介護者本人の生活の質向上のための必要なこと

- ・将来の親の介護について知る。特に認知症の症状やその対応方法等について知識を深め、介護の見通しを立てる。
- ・親や家族と話をし、その意向の把握や将来像の具体化を図る。
- ・退職後を見据えて、地域とのつながりをつくったり、第三の居場所等をもつ。
- ・自分自身の楽しみのため長く続けられる趣味を持つ。

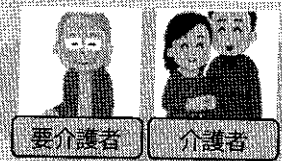
- ・職場の理解を得て、介護休暇を取得する等して親の介護体制を整える。
- ・必要に応じて介護休業を取得しつつ、仕事と介護の両立を図る。
- ・地域包括支援センターへの相談や、担当のケアマネジャーとも連携しながら、適切なサービスを利用する。

- ・職場の理解を得て、柔軟な働き方をしながら仕事と介護の両立を図る。
- ・担当のケアマネジャーとも連携しながら、適切なサービスを利用し、介護を抱え込まないようにする。
- ・介護をしつつ、見守りや交流等の地域とのつながり、第三の居場所や趣味を大切にす。
- ・退職後に余裕ができれば、就労的活動に取り組む。

支援の方向性

- 認知症者への理解を深めるための啓発
- 介護の見通しやモデル、親と話し合う必要性、居場所や趣味の必要性の啓発

- 適切な介護保険サービスの提供
- 介護休暇・介護休業制度の介護者向け・企業向け啓発
- 家族介護者のアセスメント、相談支援
- 介護者本人のための認知症カフェや、様々な立場の介護者が通いやすい通いの場等への誘導
- 家族の孤立を防ぐための見守り支援



要介護者
介護者

・要介護者のみならず介護者も介護者が仕事や生活とのバランスを保ちながら自分らしく、日常生活に満足できるよう

行政、専門職、支援者、住民などが連携した取組の推進

県の取組事例の紹介

■家族介護者支援に関する地域包括支援センター等研修の開催（令和5年1月27日）

目的：厚生労働省事業「家族介護者支援に係る人材育成等に関する調査研究」で検討される、「都道府県が地域包括支援センターを対象として行う家族介護者支援に関する研修カリキュラム」の試行

対象：市町地域包括支援センター担当課職員、地域包括支援センター職員等

■講義1：国施策動向

家族介護者支援が必要となる社会的背景や地域包括支援センターの役割、他機関連携などを「老々介護」、「就労・子育て世代」、「ヤングケアラー」の3区分に分けて講義

■講義2：県の取組

介護者本人の生活の質の向上を目指し取組を始めた経緯、各種調査結果の抜粋概要、高齢化対策審議会での意見を踏まえた認知症者を介護する方に焦点をあてた追加集計等を紹介、今後取組の具体化を目指すことを説明

■講演：守山市の実践

過去の介護殺人等を契機に、身体的・精神的負担が大きい認知症者の介護者を支援するため、介護者を訪問し問題の解決に向けて支援する「認知症家族介護者訪問」の実践を報告

■グループワーク

参加者が関心のあるテーマに基づき、「認知症者を介護する人への支援」2グループ、「虐待未然防止」2グループ「就労や子育てと介護の両立」、「家族介護者のための集いの場での支援」各1グループに分かれて連携型支援について意見交換を実施

カリキュラム改善について
たくさんご意見
いただきました

家族介護者支援に関し
て他市町と意見交換出
来てありがたかった

介護者支援はケアマネ
への後方支援、包括へ
の研修ではないか

グループワークでアイデ
アを出し合え、新たな支
援の視点を考えられた

守山市の取組を詳しく知
れて非常に参考になった

厚生労働省 令和5年度 高齢者福祉推進事業「家族介護者支援に係る人材育成等に関する調査研究」
地域包括支援センター等を対象とした家族介護者支援に関する研修 **講義**

家族介護者支援における施策の動向と
地域包括支援センターの役割

高崎健康福祉大学
健康福祉学部 社会福祉学科
大口 達也

滋賀県における
家族介護者支援に係る取組

守山市
認知症家族介護者訪問
の取組について

守山市地域包括支援センター

県の取組事例の紹介

■家族介護者支援に関する地域包括支援センター等研修の開催（令和5年1月27日）～守山市事例（抜粋）～

※当日資料を一部改変

認知症家族介護者訪問

1 はじめに

介護殺人(平成25年度)

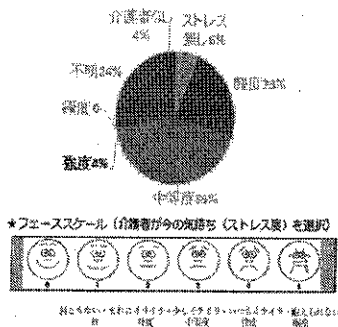
83歳の認知症を患う妻を夫が殺害し、無理心中を図るといった痛ましい事件が発生した。

無理心中(平成25年度)

72歳の脳梗塞・認知症を患う夫を妻が殺害し、妻が自殺を図るといった痛ましい事件が発生した。

事件の背景には、主たる介護者の介護疲れや、将来への不安などがあつたと推測された。他の家族の同居があつたが、介護者が心身とも孤立した状況が予想される。
(介護認定あり、サービス未利用、ケアマネジャー1名あり)

介護者のストレス度



ストレス強度3名の「今の気持ち」

- ・目が離せない、気の休まる時がない(6名)
- ・保険料滞納のためサービス利用できない(1名)
- ・本人が暴れ、デイサービスを継続できなかった(2名)
- ・福祉用具のみ(2名)・ヘルパー2回/週(2名)のみ
- ・両親ともに認知症で、子供が介護(2名)
- ・介護者である息子は孤立状態でイライラがつづる
- ・介護者の体調不良で将来が不安
- ・全てが大変としか言えない



認知症家族介護者訪問

2 目的

認知症高齢者を介護する介護者は、身体的・精神的に負担が大きい。在宅での認知症介護を継続できるような環境を整えるために、認知症の家族介護者への支援は必須である。介護者のうつおよび自殺予防、要介護者への虐待予防のために、負担感が大きくなる前に介護者を訪問し、困りごとの聞き取りやサービスの利用変更等の提案を行い、問題解決へ支援する。

3 方法

基幹包括

- ・介護保険・認定審査会後に、認定調査結果「徘徊・感情が不安定等」の対応が困難と思われる項目に該当する対象者を抽出する。
- ・対象者が在宅生活をしているか認定調査資料等で確認し、リストを作成(在宅以外は訪問対象者から除外)する。
- ・訪問対象者リストと個別の訪問シート、認定調査資料、包括相談記録を圏域包括に手渡す。

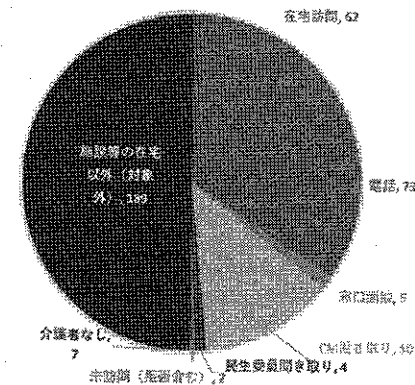
圏域包括

- ・担当ケアマネジャーには訪問前と訪問後に報告。随時訪問する。適宜モニタリングの必要性を検討する。

基幹包括

- ・圏域包括から提出された訪問後のシートを分析・集計する。

<令和3年度実施状況> 抽出者の在宅率(51.8%)



抽出者392人のうち、約半数は入院や施設入所中のため、訪問対象から除外。在宅者の208名について訪問を実施

県の取組事例の紹介

■家族介護者支援に関する地域包括支援センター等研修の開催（令和5年1月27日）～守山市事例（抜粋）～

9 考察① 介護者支援が必要と考えられる要因（9年間の事業実施から）

※当日資料を一部改変

介護者を取り巻く環境はさまざまであり、被介護者（高齢者等）の介護度をもって、介護負担の程度を押し量することは困難であることがわかった。介護者の置かれた介護環境・介護実感を適切に把握し、介護力と心身の介護負担のバランスをアセスメントする視点が重要である。

【要因】＊該当項目が増加すると「介護力の低下」「虐待等ハイリスク」と考えられる。

①介護認定はあるが、ケアマネジャー（サービス利用）なし
②介護認定あり、ケアマネジャー（サービス利用）あり
認知症のBPSDが顕著
認知症でない、認知症の兆候・兆き、介護への対応策が介護者のペースで取れない
本人の性格から起因よりも、虐待不安定から起因するもの
家族介護力が低い
在宅介護
夜間看護・相談者がいない
福祉介護費（減額）
介護者の健康状態
介護者への負担が大きい
自由行動が難しい（移動・移動）
認知症がない（うつ傾向）
ストレスと発症である
経済的負担
サービス利用の料金が払えない
介護サービス不足
二人以上で同時にケアしている
ケアマネジャーに不満やトラブルがある
介護と育児の両立
介護認定が廃止（認知症本人より介護を要する状態に陥る）

9 考察② 連携についての現状と課題

